

10年以上前に、私はたくさんの外国の相手に火おこしをレクチャーしたことがあります。

子どもが小さな頃、親子でたくさんのイベントに参加してきました。その一つの「芋掘り体験」での出来事。このイベントは芋を掘るだけでなく、木と木をこすりあわせ摩擦のエネルギーから火をおこし、その火を使って芋を焼くというすてきなイベントでした。

しかし、ここで問題が発生しました。火おこし器でいくら木をこ

⑭ 聞きたいと思われれる仕掛け



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

すつても着火しません。「レクチャーの時はできたのに…」とイベントの主催者の方は大焦りでした。私は一参加者ではありませんが、科学館にいたこともあり、急きよ協力をすることになりました。



私が伝えた火おこしのポイントは、同じ場所を集中して温めるた

焼き芋・科学実験…言語の壁超える力

めに「軸をぶらさないこと」、さらに、煙が出てきたら「一気に温度を上げるために力強く、素早くこすること」の2点です。全体説明でコツをつかんだグループから成功の歓声が上がります。成功しないグループは、個別で対応しながら、成功に導きます。しかし、全くできていないグループが…。

それは留学生のグループで、全体に説明した日本語での説明が全く伝わっておらず困っていました。私は英語が得意ではありませんが、その分は、ジエスチャーや実演で伝えます。うまくいきそうならば、「Nice!」と褒めることで楽しい場となります。良い雰囲気の中、みんなで協力する気持ちが生まれ、無事着火させ、おいしい焼き芋が出来上がりました。

私の拙い英語でも伝わったのは「焼き芋をつくるために火をおこしたい」という思いが芽生え、「話を聞きたい」という環境になったからと考えています。言語の壁を

超える焼き芋の力はすごいですね。



科学実験にも焼き芋と同様の魅力があります。私の所属する大学で国際交流を行う機会がありました。そこで事前に大学生に簡単にできる科学実験を伝授し、実践できるよう働きかけました。交流の相手は手品のような科学現象を見て、「なぜ?」と驚くとともに「教えて」と積極的に話しかけてきます。英語が苦手な不安を抱えていた学生もいましたが、「話を聞きたい」という環境が出来上がった



ことでのグループも盛り上がり、交流は大成功となりました。私自身も、アメリカやタイで科学実験教室を十数回開催してきましたが、1時間という長丁場でも子どもたちは、楽しく学んでくれています。

これは教育や育児でも大切です。火おこしや科学実験のようなこだわった仕掛けだけでなく、簡単なクイズでもそれは可能です。「伝える技術」ももちろん大切ですが、「話を聞きたい」と思える環境づくりも大切です。